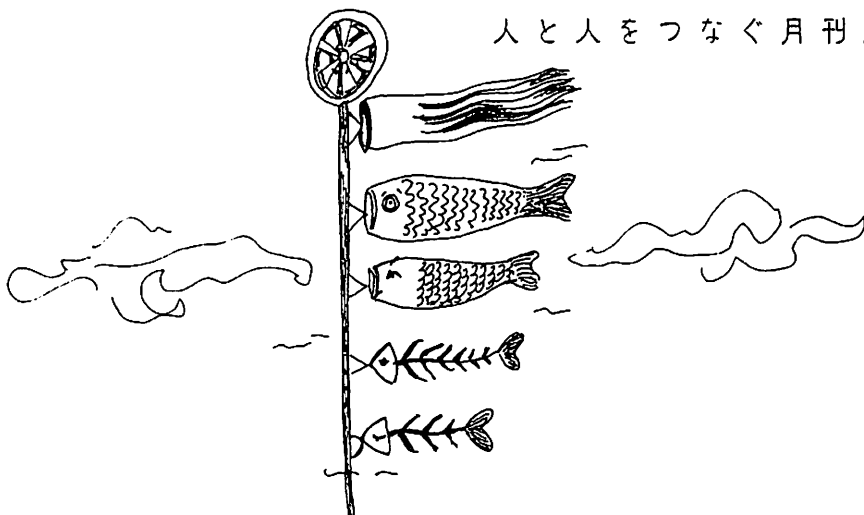


# やすらぎ

人と人をつなぐ月刊総合誌



## 恋（！）のぼり

2004年5月号 / 250円

編集部より

汚れた魂

こわれた壺「預言者に従いそのを続く者達」

「割礼」

無益なものを放棄することはイスラームの良さの一つである第4回

「子供と両親の関係」

ドゥア（祈り）のある毎日へ

「ラシードが学んだこと」

「預言者たちの風格：第2回 正直さは称賛に値する」

リサーレイヌール「一日五回の礼拝の定時（第2回）」

「屋外での勉強会報告」

「ギユレン氏とのインタビュウ：第2回」

「子供に対する親の責任」

「子どもたちへ 「平安」

心のうた 「あなたの御跡をさがし、求めて見出せるのなら」

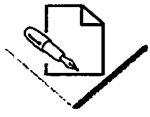
詳しく学んでみましょう 『礼拝（サラート） 第4回』

「サハーバ（預言者の教友）物語」より「子供らのイスラーム精神」

レシピコーナー「ユムルタル・エキメッキ（卵揚げパン）」

「イスラームとは何か」を読んで

28 27 27 26 25 23 21 19 17 15 13 11 10 9 8 6 4 3 2



新緑の眩い季節になりました。この時期、自然の美しさ以外に目を楽しませてくれるもの一つに、風をはらんでゆったりと泳ぐ鯉のぼりが挙げられます。都心では住宅事情もありなかなか見かけませんが、少し郊外に行くと色鮮やかな鯉の親子が遠くからもちらほら見えて、「あの家には男の子がいるんだ。一体どんな子なんだろう？」などと想像を膨らませては微笑ましい気持ちにさせられます。

鯉のぼりといえば5月5日の「こどもの日」。由来を調べてみると、元は男の子の節句である5月5日が、男女関係なく「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」ことを趣旨として戦後、国民の祝日に制定されたそうです。

将来出世するようにとの願いから立てられるようになった鯉のぼりのほかにも、子どもが健康に成長するよう身体を守る象徴としての鎧兜を飾ったり、日本でも古来より様々な伝統行事が受け継がれてきました。子どもの幸せを願う気持ちは昔も今も変わりません。

少し考えてみれば、子どもが無事成長するという事は決して簡単なことではありません。そもそも一つの受精卵が母親の胎内で10ヶ月前後を無事に過ごし、この世に誕生した後は周囲の大人たちから手厚い保護を受け、事故や病気にも遭いながら成人していき、今度は自分自身の家庭を築いて次世代の子供を育て上げていく・・・親を始め子育てに関わる大人の苦労や思いは並み大抵ではありませんが、同時にこの過程の一つ一つの多くが、関わった人間の意志や努力の届かないところで展開し、ましてや順調にうまく運ぶ保障など一つもないのです。いわば奇跡の連続の上に成り立っているといえるでしょう。都会の人ごみにはうんざりさせられても、この見知らぬ人々すべてがこのようなかけがえのない瞬間を重ねてきた、奇跡の印であるかと思うと、私たちを生かしこの世を司る偉大な力に圧倒されるばかりです。

ハディースには次のように書かれています。

生まれてくる者でこのフィトラ（本然の姿）でない者はいない。そしてその子はそれを自分の舌で表現するまでこの姿でとどまる。（サヒーフ・ムスリムより）

創造者が望まれた最良の姿・性質でこの世に生を受ける子どもも、周囲の環境や育てる大人の影響によってその良さを失いかねません。こどもの幸福や健やかな成長を願わない大人はいないでしょう。ただどのようにその責任を引き受けるかとなると、自分自身の行いや自覚の程を見直してみる必要があるかもしれません。さらに、大人は子どもの姿を通して創造者アッラーの偉大さ・恵みを多く学びとれるのではないのでしょうか。



## 本当に長い人生

本当に長生きした人々というのは、長い年月を生きたというのではなく、己の人生をできる限り実りあるものにすることができた人々です。この基準に立脚すれば、100歳でも短命だといえる人もいれば、一方で、たった15歳にもかかわらず努力が最大限に実を結び、最高水準にまで達することができているといえる人もいるわけです。

## 極端を避けること

私たちは思考にしても行動にしても極端に走ることを避けるべきです。極端な行動を起こすことはある種の致命的な害悪です。質素さや誠実さを求めるあまりみすぼらしい衣服を身につけたり、壊れた古い物だけをほんの少し揃えた粗末な家に住むことも間違いなら、現代風の高価な衣服やあらゆるぜいたく品の中だけに洗練さや文明、繁栄といったものを見出すのも過ちです。

## 楽しいその日暮らしの生活をする人々

年齢を重ねても神を崇拝することへの専心を増さない人は非常に不幸な人です。なぜならその人は恩恵を受けるチャンスがある時に損失を被っているからです。このことを理解した瞬間、その人は今日愉快だと思っているものを目の当たりにして嘆かずにはいられないでしょう。

## 汚れた魂

人は一般的にその人自身の魂という鏡を介して他者のことを見っていますが、その鏡についたしみや汚れが原因で、映ったイメージがあたかも他者そのものの姿だと捉えてしまいます。それゆえその人の他者に対する判断は全く間違った偏りのあるものとなります。汚れた魂を持つ罪深い人は他者を失敗者と見なしますが、実際はその人自身こそが失敗者なのです。



## 預言者に従いその後を続く者達

預言者に従い、その後を歩もうとする時には、存在そのものをどのようにとらえ、どのようにそれに近づくかを注意深くよく考えることが必要でしょう。万物を観察し、得られた証拠から出発して、真の主<sup>1</sup>に到達するのに相応しい接近法は、最初に創造者の存在を認め、受け入れるやりかたです。(すべてはそこからはじまります。)これとは逆に、(人間を中心にして存在を捉える場合)自分になにかを与えて存在から(主の属性を中心にして捉える場合)「すべての恵みを作り、与える真の主(ムンイム)」を認識すること、又は「恵み」から「すべての恵みを作り、与える真の主(ムンイム)」を認識する方法<sup>2</sup>ですが、これは人々を道の途中で足踏みさせる原因となる事があります。自然主義者達や物質主義者達の考え方が行き詰まりを見せているのは、この例に当てはまるでしょう。

そうです、始めに完全なる存在者であられる真の主(アッラー)を認め受け入れる方々は、見るものすべての中に彼(アッラー)を見出します。木々や枝々の中に、果実や葉の中にそして種の中にも・・・マクロからミクロの世界に、又その逆に小さなものから大きなものあらゆる物の中にただ彼(アッラー)のみを観ます。これはちょうど、文字や単語から文全体の書体や特色を知る事ができるのにています。特にオスマントルコ語ではたとえば「メクトゥブ」と言う単語はミクトゥーブとかミュクトゥーブ等いろいろな発音は考えられません。なぜならオスマントルコ語は音節ではなく決まった型によって見分けられるからです。速記のように決まった型があり、それぞれの型を記憶なされば、単語をご覧になった時、正しく発音ができます。このように存在を全体として、彼(アッラー)に結びつける事ができる方々、又は繋がりが生じたその時からずっと完全なる存在者を信じる方々は、いつでも彼を見、彼を知り、彼を感じます。これが預言者の見方、知り方、感じ方であり、存在するものを正しく理解すると言う事です。存在をこのように理解なさる方々はアッラーをより多く知る事ができるようになります。アッラーへの知が増せば増すほど、考え方や視野もより深まり、ついにはその日がやってきます。そうです、彼の御力、ご意志、御望みそしてすべてをお聴きになりご覧になっている彼の存在そのものに、自分自身が囲まれている事を見出すのです。そして、これらの恵みをお与え下さる主に熱愛と感謝を込めて近づくことでしょう。

存在するものをこのように捉える事のない方々は、彼らの上に夕立のように降り注ぐ恵みに対して横

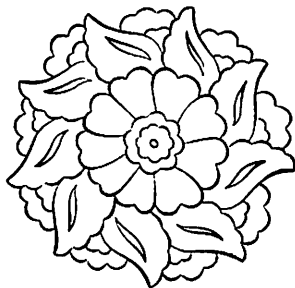
<sup>1</sup>昔々ニューフラテス川のほとりに、民衆から慕われたスルタンがいました。壊れたつぼで水を汲み、愛するスルタンに捧げた人がおりました。もともと水源そのものがスルタンの所有だったのですが、このこわれた壺では、なかなか水をすくい上げることができません。それでも、一生懸命水を汲もうとした貧しい人のお話が伝えられています。

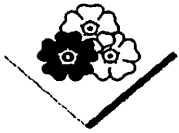
「こわれた壺」はその話に因んでいます。M.F.ギュレン師が語っている言葉を文字にした文章の訳です。(HPからの転載)

<sup>2</sup>人間(自分自身)の側から存在をとらえずに、神の属性そのものから存在を捉える方法

柄な気持ちを抱き、あつかましくなり、増長してしまいます。偉大な先人の書かれた本の中にも幾つか例が述べられていますが、人間は多くの恵みの中にアッラーを見出し、永遠ではなく、つかのまを生きる存在であるのに、それらの恵みに自分自身が到達したと思ひ、これらの恵みは得られるべくして得られた報奨だと勘違いしてしまうことがあります。ですから、アッラーに対して尊敬を保ちつづけ、増長しないようによく注意しながら、アッラーへの感謝の念で心を満たすこと、私達を増長させるくらい多くの恵みを次から次へと豪雨のように降りそそいでいただいても、恵みに対して増長しない事、それらの恵みをお与え下さる私達の主に真剣に感謝の意を表することが必要です。アッラーが人間を鏡としてお造りになられたのでしたら、人間は鏡になる事を知るべきです。すべての態度で、行動のすべて、言葉のすべてで、そしてすべての考えで、常にアッラーを思い、人々にも思い出させることができるように、心がけるべきです。これが預言者に続く者達の態度です。そうです、預言者達はすべてこのように行動なされ、このようにしてすべての人間に対し光を保ち、放ちつづけ、皆さんの模範として、生き続けられました。これは預言者の後に続く者達の呼びかけでもありますし、この呼びかけに応えなくてはなりません。歴史が証言するように、この呼びかけに応えたものたちは、道を間違えることなく、騙される事ありませんでした。

要約しますと、預言者に従ひ、彼のように捉え、考え、感じ、アッラーと結びつき、すべてをアッラーに仕えるしもべである事にのみ帰し、スンナの光のもとに問題を解決する事が大切であり、と同時に、私達自身が安楽さと無気力さに陥る事から遠ざかるために、私達は預言者の後に続く者達を必要としても申し上げられます。





割礼はハディースにもあるように預言者のスンナ(慣行)であるが、清潔のためにもよいようだ。ユダヤ教徒、イスラム教徒、キリスト教徒の一部は宗教儀礼として行っているが、医師の話では、包茎ガン予防のためにアメリカなどでは宗教に関係なく、出生後、一般的に行われているらしい。

先日、東京衛生病院で、ウマル(5ヶ月)の割礼の手術が無事終わった。

こんなきれいな体にメスを入れるなんてかわいそうだな、とか全身麻酔の不安(頭がおかしくならぬか、無事に麻酔から覚めるのか)があったが、大丈夫なようだ。

さすがY先生、美しく(?)きれいに切ってもらった。これでウマルも“男”になった。

東京衛生病院はキリスト教プロテスタントの一派、セブンスデー・アドベンチスト教団が設立した病院で、スタッフも信者が多いようだ。かなり宗教色が強い病院という感じがするが、患者に信仰を押し付けることはない。病院に置いてあった教団の小冊子を読んだが、教えにはイスラームと共通の部分が多く(同じ神の啓示を信じているのだから当然か)、イエスについての記述以外、神の教えそのものにはイスラームと同じことを言っているな、と違和感をほとんど感じなかった。

病院のスタッフもやさしく、アットホームな感じで雰囲気もよく、ベジタリアンなのでカフェテリアでも安心して食べれるし、それに健康的だし美味しいし、近くにもこんなレストランがあったらいいな、と思った。

手術は水曜日だが、5ヶ月の乳児の場合、前日の午

後入院し、小児科の診察、レントゲン、血液検査などして、麻酔に耐えられるか判断するようだ。

1日目は検査のための入院で、2日目に手術、順調であればその日の夜には退院できる。乳児の場合、母親が付き添いで泊まることもできる。手術の前後1ヶ月間は予防接種を受けられないので、それを考慮して手術の予約を入れる必要がある。以下、病院での様子。

3月30日(火)

14:00 入院受付、小児科の診察、レントゲン、採血。

15:30 小児科病棟へ。ナースステーション隣の個室(トイレ、洗面所つき)に入る。尿検査、体温、血圧など測る。母乳を飲んだ時間と量(体重チェック)と尿や便の記録をつけるように指示あり。

18:00 夕食(離乳食)。 19:00 小児科消灯。

3月31日(水)

7:00 起床。朝食。手術のため、食事やミルクは8:00まで。水、白湯は10:00まで。

10:00 点滴開始。手術までの間、体温、血圧など何度か検査。

14:00 手術開始。親は控室で待機。その間クランを読み、ズィクルやドゥアをして過ごす。手術自体は10分ぐらいの簡単なものらしいが、全身麻酔をするので麻酔から覚めるまで1時間ぐらい手術室にいる。ウマルの泣き声が聞こえた時は「あー、麻酔から覚めたんだ」とホッとした。

15:15 病棟に戻る。お腹が空いているのか、麻酔から覚めるときの気持ち悪さからなのか、ずっとぐずっている。

16:00 白湯を飲ませると勢いよく飲んだので、母乳を飲ませてもよいとのこと。おっぱいをごくごく音をたてて飲んだ後は、疲れもあってかぐっすり寝る。看護師さんが心電図、血圧、体温など何度か測りにくる。

18:10 執刀した外科の Y 先生診察。薬(消毒液、抗生物質の飲み薬、ゲンタシン軟膏)の説明。術後の経過も良好ということで帰宅許可。

18:50 退院。

今回、小児科病棟に一泊して、子供にとって母親の存在がどれほど大きいのか、子供の気持ちを考えさせられる場面に遭遇する出来事があった。

夜中、向かいの部屋の 2 歳ぐらいの感染症の男の子がずっと泣いていた。看護婦さんがなだめるが、1 時間以上「ママー！ママー！ママくる？ママくる？」と言いながら泣き続けている。おそらくはじめて 1 人で過ごす夜なのだろう。病気で体が苦しい上に、親と離れてどんなに心細いだろう。幼い子供にとって母親の存在がどれほど大きいかを感じさせられた。

次の日の夕方、10 歳ぐらいの女の子が廊下で「帰らないで！帰らないで！私を一人にしない

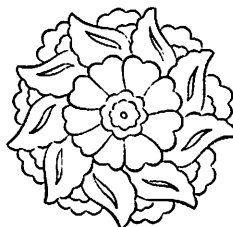
で！！」と母親の体にしがみついて、泣き叫んでいた。母親は「明日また来るから」と繰り返して、落ち着かせようとしていた。なんと切ない光景だろう。

今、世界の戦闘地域で女・子供を含む多くの人が殺されている。さっきまで元気で一緒に遊んでいた親を一瞬にして失ってしまった子供の気持ちを考えた。どんなに待っても帰ってこない、愛しい親と二度と会うことができない、その悲しみ、心の傷はいかほどであろうか。

\*\*\*\*\*

・ 預言者らのスンナ(フィトラ)は次の五つである(もしくは、次の五つがフィトラに近い行為である)。それらは割礼すること、陰毛を剃ること、爪を切ること、腋毛を抜くこと、口髭をそろえることである。(「サヒーフ ムスリム」第 1 巻 p.203)

・ アブー・フライラは、預言者が「五つの習わしがあり、それは割礼、陰部を剃ること、口ひげを刈ること、爪を切ること、そして腋毛を抜くことである」と言うのを聞いた、という。(「ハディース(ブハーリー)」V 巻 p.285、衣服六四(二)、中公文庫)



## 「無益なものを放棄することはイスラームの良さの一つである」： 第4回

ハディースの移住に關しての部分には先に少々触れたのでそれで十分とする事にして、預言者ムハンマドのそれ以外の輝かしいお言葉に移ろう。そのお方は言われる。

「無益なものを放棄することは、ムスリムにとってイスラームの良さの一つである」<sup>viii</sup>

### 全てに於ける健全さ

人はその心をこのイフサン（心の静けさ）の感覚で包んでしまうと、もはや彼の振る舞いを健全さが支配する事になる。アッラーは、事が健全に成されることを望まれ、またよい事を好まれる。聖クルアーンではこのように言われている。

「(彼らに) 言ってやるがいい。(よい事を) 行え。アッラーはあなた方の行いをご存知であられる。かれの使徒と信者たちもまた(見ている)。やがてあなた方は、幽玄界と現象界を知っておられるかたに帰される。その時、かれはあなた方にその行なった事を告げ知らせる」(悔悟章9 / 105)

つまり、行なわれることは全て預言者ムハンマドや賢明な魂を持つ信者たちが観察しているのである。だから、全ての行為はそれを考えた上で行なうべきであり、それによってその行為を行なう者がはばかることもなくなるであろう。そのためには、行為が健全な形で行なわれることが条件となる。そしてそれを成功させることは、ただ内面がイフサンに到達する事によって可能となる。人間は内面世界によってこのように深みを増していく事によって、その振る舞いも完璧なものとなり、その人はもはや無駄なことに関わることもないであろう。このようにしてイスラームの素晴らしさが獲得され、別の表現をするなら、素晴らしい存在であるイスラームを實踐し、その素晴らしさにふさわしい成熟した段階に達した事になるのである。

このように、預言者ムハンマドはこれらの意味の全てを、この数語からなる言葉で説明されているのである。私はこの事を解き明かそうと努めたが、それでも十分なことが言えた訳ではない。花崗岩から、ほんの少し削り取っただけである。あなた方に紹介できたのは、本来の石のほんの一つ二つのかげらである。それらでさえも、もしかしたらあなた方の心に十分に吸収される形で解説することはできなかったかも知れない。ただ、私や他の私のような者のこの無力さは、預言者ムハンマドの言葉、表現における力を証明するものである。我々は、預言者が語られた言葉を理解する事においてさえ、無力である。しかし、預言者はこれらの言葉を考えることさえなく語られたのである。我々にとってこれほど難しく、これほど意味深い言葉は、預言者ムハンマドが普通に語られた言葉なのである。預言者特有の知性以外の何で、このことの説明がつくであろうか。賢明な、頭のいいといった言葉は、この特質を語る上では全く不十分なものである。

<sup>viii</sup> Tirmidhi, Zuhd 11; Ibn Maja, Fitan 12



この世界では辛いことも幸せなことも経験しますが、結局我々を来世へと運んでくれる人生をおくっている場所です。それにこの人生は多くの畏や試練を含んでいるのも確かです。子供もその試練のひとつとして大事な立場に立っているのです。子供は人にとって非常に特別な恵みでありながら試練でもあります。

母親の試練は妊娠した最初の日々から始まります。ほとんどの母親は自分が吸い込んでいる空気ですえ子供に伝わると心の中で思うのでしょう。食べた小さな食べ物や飲んだ一滴の水もお腹のなかで二人の共有のものとなるからです。その後も母親が子供を抱いて運ぶのです。子供のために夜中に起きたり、子供に何かあるかもしれないと思って常に心配し続けるのです。

子供は、アッラーが人間に与えた預かり物であります。時期が来たらそれを取り戻すに違いありません。もし子供の世話をきちんとみて、人類のために立派な人間として育てることができていれば試練は合格です。しかし人は自分だけのために、自分のものとして子供を育てそれを楽しんだりしているのであれば、もしくはアッラーに対して感じるべき愛を子供に対して感じるようになれば「ひとつの心に二つの愛情は存在しない」ということで試練は不合格ということになります。

クルアーンのある節で子供は財産のように「この世界の試練」のひとつとして取り上げられているのです。「あなたがたの富や子女は、一つの試みに過ぎない。アッラー、かれの御許に（だけ）偉大な報奨はある。だから心を尽してアッラーを畏れ、聞きそして従い、また（施しのために）使え、あなたがた自身のために善いであろう」。(騙し合い章 [アッ・タガーブン]: 15、16)。この節で説明されているように全てのはアッラーに仕えるためのものであり、そのための道具であるわけです。これに従って生活をしている人は試練が合格で残りは不合格です。これは子供やこの世界を完全に投げ捨てることではありません。逆に、本当の主の名前においてそれらのものの責任を完全に取ることを意味しています。こうして、人は自分のことをアッラーの物を預かっていて、守らなければならないと思うべきです。

イスラームは子供に関して親にいくつかの責任を与えているのです。綺麗な名前をつけることや、いい教育を受けさせることや結婚させることなどがあります。これらの責任を真剣に考えなければなりません。赤ちゃんが毎日食べるものが医者によって決められているように親も子供の一生に関して真剣に計画を立てて最良の教育などを受けさせるべきです。特に結婚させるとき、相手の経済的な状態や美しさなどではなく預言者ムハンマドのように宗教的な面や精神的なところを考えながら行動をとるべきです。

子供が礼儀正しく育つためには子供との距離は真剣に十分に置くべきです。子供との関係はまじめである一方、子供の悩みなどに関して相談にきちんと乗ったり、子供と一緒に喜んで遊んだりするのも大切です。両親として子供の単なる遊び相手になってしまうと距離は守られず両親としての教育はちゃんと成り立たないことになってしまいます。このような環境で育つ子供は不安定な性格を持ったり、無礼な子供になってしまうことが多いのです。従って自分の子供や、預かった子供との距離をきちんと保たなければなりま

せん。これは子供のために最も良いのです。

子供はいつも心の中で、自分がなりたようなモデルの人間を必要とするのです。両親はそのモデルになります。立派なモデルを家族の両親の中で見つけることができなかつた子供は外でそれを捜し始めますがこれは精神的に良くありません。捜し求めているモデルが家族の中で見つかった子供は幸せな人生をおくるのです。

最後にクルアーンのある節を読みましょう：「信仰する者よ、あなたがたの妻や子女の中にも、あなたがたに対する敵がいる。だからかれらに用心しなさい。だがもしあなたがたがかれらを赦し、大目にみ、かばうならば（それもよい）。本当にアッラーは、度々御赦し下される御方、慈悲深い御方であられる。（騙し合い章〔アッ・タガーブン〕：14）子供と財産は潜在的な敵である一方友人でもあるのです。アッラーのための物として取り扱って、活かせることができれば、これらのものによって人はこの世界でも来世でも幸せになるに違いありません。

## ドゥア（祈り）のある毎日へ

アッラーよ、あなたの御名において、あなたに懇願いたします。

ヤーハンナーン、恵みをやさしく被造物へ届けるお方よ

ヤーマンナーン、かぎりない恵みをお与え下さるお方よ

ヤーダイヤーン、しもべの行ないにふさわしく公正に応えるお方よ

ヤーグフラーン、限り無く赦されるお方よ

ヤーブルハーン、道を示されるお方よ

ヤースルターン、統治者よ

ヤースブハーン、完全無欠なお方よ

ヤームスタアーン、万物から頼られ援助を望まれるお方よ

ヤーザルマンニー ワルバヤーン、万物に限り無い恵みと糧を与え、万物にお与えになった確たる力で、ご自身を示されるお方よ

ヤーザルアマーン、万物に信頼をお与えになるお方よ

あなたは完全無欠なお方、あなたに栄光あれ、あなたの他に真の神は存在しません。私達を地獄の炎からお助け下さい。<sup>14</sup>

<sup>14</sup>偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌルカビール）には、祈願（きがん）、唱念、救いを望むことが記されています。それは、真の主アッラーの多くの御名を知らしめ、それらの御名と共にアッラーへ祈願し、近づく方法を示す大変貴重な意味深い書です。鎖帷子は戦いの時、身を攻撃から守るために着ます。人間の靈魂に授けられた善美を守るためには、偉大なる鎖帷子のような精神的鎧が必要です。本来、偉大なる鎖帷子（ジャウシャヌカビール）が精神的世界のみではなく、物理的世界においても守りとなると伝えられています。



(今月の「やすらぎ」のテーマは“子供”です。これは子供向けのストーリーです。お子様と一緒に読んでみて下さい。)

ある日ラシードは学校の後で家に帰るためにバス停に向かって歩いていました。彼はそこで待っている間、他の子供たちの会話を聞き始めました。彼らの1人は、自分のシャツと手に持っていた電気自動車のおもちゃを示しながら、大きな声で話をしていました。ラシードはより注意を払って話を聞き、彼らが何を言っているのか理解し始めました。

それまでやかましく話をしていた少年の名前はアーシムでした。彼は友人たちに向かって自分の高価な服と最新式のおもちゃについて話していたのでした。家に着いてからもラシードは少年が言っていたことを忘れることができませんでした。兄のズバイルはラシードが考えに没頭していたのを見て、弟の横に座りました。

「ラシードどうしたの？何について考えているの？」と彼は尋ねました。

ラシードが答えました。「僕は家に帰る途中、一人の少年を見た。彼は自分の素晴らしい服と素敵なおもちゃについて友人たちに話をしていました。彼は本当に思いやりがなく、友人たちの中にはこのようなものを買う余裕がない人もいたことを気かけなかった。僕は彼の行動が非常に悪いと思った。」ズバイルが同意しました。「ラシード、君は正しい、彼がしたことは正しいことじゃない。アッラーは我々すべてに異なった祝福を与えてくれているんだ。ある人がいっそう素晴らしいものを持っていて、いっそうきれいであるか、あるいは成功していても決してその人自身の能力の結果ではない。アッラーは我々をテストするために我々に祝福を与えて、そして我々がどのように行動するか見るんだ。



アッラーにとって最も喜ばしい行動とは彼が持っているすべてをアッラーが与えてくれたことを忘れないことだ。我々はアッラーが我々に与えてくれた祝福を自慢したりあるいは慣れきってはならない。我々は常に控え目に振る舞わなくてはならない。とにかく、うぬぼれて威張っているのはシャイターン（悪魔）だ。僕らが昨日読んだクルアーンの節はこの問題についてだった。アッラーは言っている：「それはあなたがたが失ったために悲しまず、与えられたために、慢心しないためである。本当にアッラーは、自惚れの強い高慢な者を御好みになられない。」（鉄章（アル・ハディード）：23）」

ラシードがうなずきました。「だから我々はアッラーが我々に与えてくれたものによって甘い考えを持つてはならないし、何かを失ったときも、悲しんだりあるいは落胆してはいけな。ズバイルお兄さん、そ

うだね？」

「その通り！」ズバイルは微笑みました。「アッラーがすべてを所有している。アッラーはお望みのままに我々に多くの祝福を与えてくれる。その祝福が多くても少なくてもそれらはすべてこの世におけるテストなんだ。」

ラシードは兄に質問をしました。「ある節で、アッラーは言っています。「またわれが、かれらのある部類の者に与えたこの世の生活の栄華に、あなたの目を見張ってはならない。われは、それによってかれらを試みた。あなたの主の賜物こそ至上でまた永続する。」（ターハー章：131）。アーシムがしたことは間違っていた。でも周りにいた友達も、感心したりアッラーを喜ばせないような風に振舞ったことは同じく間違っていたんじゃないだろうか？でも我々に服、食物、家と自動車を与えてくれたのはアッラーであるけど、気分を悪くさせられると本当に恥ずかしい思いをするよね？」

ズバイルはしばらく考えました。「そうだね。良い説明の仕方だね。クルアーンに載っている物語を例に話そう。クルアーンで、アッラーは2人の男の人たちの例を教えている。彼らのうちの1人が2つの庭を持っていた。アッラーはなつめやしの実と種々の収穫でそれぞれの庭を満たした。時期が来て、両方の庭で農作物が実った。2つの庭の間には川があって、それで男は果物を豊富に得ることができたのだ。庭の所有者が友人と話をしたとき、こう言ってへこませたんだ。「わたしは富においてあなたに優り、また（家族の）人びと（人数）でも優勢です。」（洞窟章〔アル・カハフ〕：34）彼は所有していたすべての財産を見せびらかして、庭に行き、友人にそれらを示しながら言ったのだ。

「わたしはこれが、何時かは荒廃するとは思いません。また（審判の）時が来るとも思いません。また仮令わたしの主に戻されても、きっとこれよりも良い所を見い出すでしょう。」（洞窟章〔アル・カハフ〕：35、36）

彼の友人は彼に警告した。

あなたの園に入るとき、「すべてはアッラーの御心のまま、（本当に）アッラー以外には、何の力もございません」と、どうして言わないのですか。たとえあなたが富と子女において、わたしがあなたよりも劣ると思ったとしても。だが主は、あなたの園に優るものを、わたしに与えるかも知れません。またあなたの園に天から災害を御下しになり、平らな土に返されるかも知れません。（洞窟章〔アル・カハフ〕：39、40）

庭の所有者はこれらの警告を真剣に受けとめなかった、そして最終的にアッラーは彼を罰した。ある晩アッラーは暴風を起こしてすべての農作物を破壊してしまったのだ。

庭の所有者が朝起床して、自慢の農作物を失ったのを見たとき、彼はアッラーが無限の力を持っていて、そしてすべてがアッラーの制御の下にあることを理解した。ラシードよ、我々は決してこの物語を忘れてはならないね。」

---

<sup>44</sup> Muslim, Fada'il al-Sahabah 143



## 預言者たちの風格：第2回

### 正直さは称賛に値する

約束を守る人については、聖クルアーンで次のようにほめられている。

「信者の中には、アッラーと結んだ約束に忠実であった人々が多くいたのである。ある者はその誓いを果たし、またある者は待っている。彼らは少しも、祖の信念を変えなかった」(部族連合章33/23)

この最後の節についてももう少し付け加えたい。アナス・ビン・マーリクは、預言者ムハンマドの召使いである。預言者がマディーナへ移住をされた時、彼の母は、まだ10歳のアナスの手を引いて預言者ムハンマドを訪れた。そして預言者に「私の息子に、一生あなたのそばで仕えさせてください」と言い、アナスをそこに残して去った。「この節で取り上げられているのは、私の叔父のアナス・ビン・ナーディルに違いない」<sup>xi</sup>と言っていた。

アナス・ビン・ナーディルは、アカバの地で預言者ムハンマドに会い、あたかもまじないか何かにかかったかのようにこのお方にひきつけられ、狂ったように愛した。彼はなぜか、バドルの戦いに参加することはできなかった。バドルの戦いは、特別なものであった。その戦いに参加した教友たちが皆選ばれた者たちであったのと同様、これに参加した天使たちもまた、選ばれた存在であった<sup>xii</sup>。



アナス・ビン・ナーディルはこの機会を逃し、非常に苦しんでいた。預言者ムハンマドを訪れて、その苦しみを打ち明け「もし、私が彼らと戦う機会があれば、彼らは私から大きな痛手を受けるでしょう」と言った。アナスの心からのお祈りは聞き届けられ、ウフドの戦いでは、不信心者たちと戦ったのである。

ウフドと聞くと、人の心は痛む。なぜなら、そこで、70人の教友たちが犠牲となったのである。そして、おそらくは、預言者ムハンマドは、その地での辛い記憶のために、その地を中傷する者が現れるかもしれないという考えから、ある手立てをとられた。すなわち、ある日、その地を通る時「ウフドは、あなた方を愛する。我々もこの山を愛そう」<sup>xiii</sup>とおっしゃられたのである。

ウフドは、険しい山である。しかしウフドの戦いはその山よりもさらに厳しいものであった。教友たちは、

<sup>xi</sup> Bukhari, Maghazi 11: Ibn Maja, Muqaddimah 11

<sup>xiii</sup> Bukhari, Zakat 54

時として自分に任された地点を守ることができず、また基地の場所を変えなければいけないことさえあった。その結果として、預言者ムハンマドの示された目標を達することができなかった。これは単に作戦上のことであり、それを即破滅、敗北ということは適当ではない。我々の、教友たちに対する理解は、これほどに、敬意をこめたものである。

この戦いで預言者ムハンマドも怪我を負われた。歯が折れ、そのかぶとが顔に刺さり、全身血だらけになられた。それにも関わらず、この慈悲深い預言者は、手を広げられ、このようなお祈りを続けられた「アッラーよ、我が民をお許してください。彼らは知らずにいるのです」。<sup>xiv</sup>

アナス・ビン・ナーディルも、<sup>じゅうおうむじん</sup>縦横無尽に走り回っていた。一年前に預言者にした約束を果たそうと努めていた。彼は懸命に戦っていたが、他の多くの者と同様、もはやその最期の時を迎えようとしていた。体中が穴だらけになりながらも、最期の瞬間には、口元に最後の笑みを浮かべ、そばに駆け寄ったサアド・ビン・ムアーズに「預言者によろしく伝えてください。確かに今、ウフドの向こう側から天国の香りを感じている」と言った。

その日、多くの犠牲者は身元の判明ができない状態であった。ハムザは見つからず、ムスアブ・ビン・ウマイルも判明されなかった。アブドゥッラー・ビン・ジャフスは、ばらばらになった遺体を集めてやっと、彼だということが判明した。アナス・ビン・ナーディルも同じ状態であった。妹が来て、刀をつかんだままの手（おそらくそこだけは傷を受けていなかったであろう）を見て、泣きながら「預言者よ、これがアナス・ビン・ナーディルです」<sup>xv</sup>と言ったのであった。

そして、この聖クルアーンの節は、この勇ましい青年のことをさしているのである。

彼は約束したことを守り、言ったとおりに、戦って死んだ。死さえも、彼に約束を破らせることはできなかったのである。

この節が彼を説明しているのは、信仰する者に一つの手本とするためである。そう「ラー・イラーハ・イッラッラー」（アッラーの他に神がない）と言った以上、誰もがこのように、この言葉が含む意味に忠実でなければならない。この教えを荒廃させたり、信心が失われたり、敬意を失ったりすることがあってはならないのである。

アナス・ビン・ナーディルや彼ようである者たちは約束を守った。約束を守り、忠実であることを証明したのである。なぜなら、彼らは、預言者ムハンマドから学んだからである。このお方が忠実で、信頼できる方であるのと同様、その親友たちも、同じように忠実で信頼できる者たちであった。

---

<sup>xiv</sup> Muslim, Jihād 101, 105; Bukhari, al-'Anbiya' 54

<sup>xv</sup> Muslim, 'Imarah 148

## 一日五回の礼拝の定時 (第1回)

第9のことは〔一日に行なうサラート（礼拝）を5回に定時された理由について説明する〕

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

فَسُبْحَانَ اللَّهِ حِينَ تُمْسُونَ وَحِينَ تُصْبِحُونَ وَلَهُ الْحَمْدُ

فِي السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَعَشِيًّا وَحِينَ تُظْهِرُونَ

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

「それで、夕暮にまた暁に、アッラーを讃えなさい。天においても地においても、栄光は彼に属する。午後遅くに、また日の傾き初めに（アッラーを讃えなさい）」<sup>90</sup>

兄弟よ。あなたは日に五回の祈りの時間がなぜ指定されているのか、それにはどんな英知が含まれているのか、尋ねた。私はそのたくさんの英知の中から、ほんの一部分について述べてみよう。

それぞれの祈りの時間は、地球の公転におけるそれぞれの時間の区分の始まりを示しているのと同時に、神の力と、普遍的な神の摂理の鏡でもある。それで、さらなる賛美でもって全能の神をたたえることが定められている。そして、それぞれの時間の区分の間で蓄積された神への賞賛と感謝で、神をたたえることが定められているのである。それが規定された礼拝の意味である。この、少々繊細で、そして深い意味を理解するために、あなた方は、次の五つのポイントを私自身の精神と一緒に、聞いてほしい。

### 第一のポイント

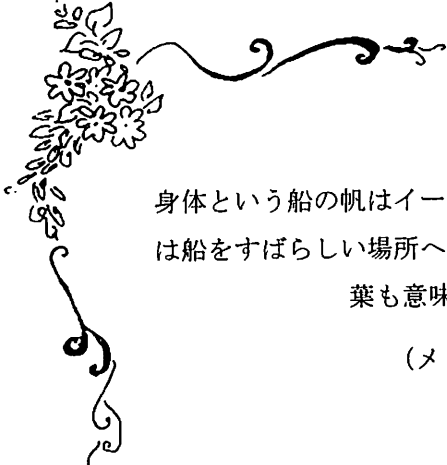
礼拝とは、全能の神に、賛美、賞賛、感謝を捧げることである。神の崇高さの前に、スプハーナッラー（アッラーに栄えあれ）と唱えることは、神をたたえ崇拝することである。そして、神の完全性の前でアッラ

<sup>90</sup> 聖クルアーン ビザンチン（アッ・ローム）章30／17～18

ーフアクバル（アッラーは偉大なり）と宣言する事は、神を賛美することである。そして、アルハムドリッラーと唱えることは、神の完全なる美しさの前に感謝を捧げることである。賛美、賞賛、感謝は礼拝の核のようなものである。そのため、この三つの言葉は礼拝の全ての部分で、全ての動作と動きに存在する。それらの神聖な言葉を強くするために、礼拝の後でそれぞれを三十三回ずつ唱えるのも、そのためである。礼拝の意味は、この三つの焦点によって確証される。


## 第二のポイント

祈りの意味はしもべが彼自身の欠陥と無力さを知り、神の法廷で、アッラーの完全性を前にして愛と驚愕のうちに屈服することである。つまり、神が絶対的に最高であることは崇拝と服従を要求するのと同時に、そのしもべが赦しを請うことによって、そして神への賞賛によって、自分の欠点に気づくことを求めているのである。そして、神をたたえ、アッラーに栄えあれと唱えることは、彼を支える存在が清く、まったく欠点がなく、高く、人々の誤った考えから遠く、神聖で、この宇宙においてまったく非のないことを宣言することである。神の神聖さがこれを要求するのである。同じく、神の完全な力は、しもべが彼自身の弱さと他の被創造物の無力さを理解することによって、神がなされたことの威厳を前にして、賞賛と驚きのうちに神が最も素晴らしいということを宣言することを要求する。そして深い謙虚さの中で頭を下げるのが、神への逃避を求め、その信頼を神におく。同じく、神の慈悲の無限なる宝庫は、しもべが懇願と祈願の言葉を通して、彼自身の必要とするものと、他の被創造物の要求、窮乏を知らせ、そしてアルハムドリッラーと口に出すことによって、彼を支えるものの恵みと賜ったものを明らかにすることを求める。すなわち、礼拝の言葉と動作はこれらの意味を含んでおり、そして、神によって定められたものである。



身体という船の帆はイーマーンである。帆があれば、風は船をすばらしい場所へ導く。帆がなければ、どんな言葉も意味を成さない。

(メヴラーナ)







先日、屋外にてイスラーム勉強会を有志で行う事にしてみました。場所は新宿御苑でした。新宿御苑は JR 新宿駅南口から徒歩約 10 分という所であり、入園料 200 円(大人)を支払う必要がありますが、広大な面積と 3 種類の庭園 (イギリス式・フランス式・日本式) と様々な植物を愛でる事が出来る素晴らしい場所です。

ここは、もともとは徳川家康の江戸入城の際、家臣の内藤清成という人に与えられた屋敷の一部でした。明治に入ってから、政府は内藤家が上納した土地と買収した隣接地を合わせて「内藤新宿試験場」という近代農業振興を目的とする施設を作りました。ここでは品種改良や農業技術の研究が幅広く行われていましたが、明治 12 年に宮内省が管轄する「新宿植物御苑」として生まれ変わりました。花木の栽培研究は継続されましたが、主に皇室の土地と農園として、魚や動物を飼ったりすることになりました (大正 15 年には、ここの動物園が上野動物園に移されました)。その後植物園から庭園への転身をはかり、明治 39 年に皇室の庭園「新宿御苑」として開苑されました。その後は戦中の空襲で大打撃を受けましたが、昭和 24 年には「国民公園新宿御苑」として一般開放されることになったのです。

私たちが行った日はよく晴れており、苑内は八重桜がほぼ満開という大変素晴らしい状態でした。11 時ごろに集まる予定でしたが、多少遅れたので苑内を散策してからお昼を食べる事にしました。花見の客の数も多かったのですが、酒の持ち込み禁止ということもあってか、良く見かけるようなビニールシート上での大宴会は行われておらず、

2004 年 5 月 やすらぎ

のんびり散策したりしているのが好印象でした。イギリス風景式庭園はのどかな感じ、日本庭園は落ち着いた感じでした。入園料を取る代わりに、整備も清掃もきちんとされています。私たちが腰を落ち着けたのは、奥まって人が少なく静かな芝生の広場でした。持ち寄ったお弁当を食べ、久々にのんびりした気分を味わいました。

おなががいっぱいになったら、次は勉強です。今回はみんなでアッラーの美名の一つ、「クッドゥース (聖なるもの、清らかなもの、輝かしいもの)」について勉強しました。ある本をテキストにして、この「クッドゥース」について理解を深めようということだったのですが、そこには「この世界には無駄なものは何一つ無く、浄化システムがうまく働いている」とありました。この世界の清潔さと秩序を保つ事の難しさ、そしてそれが食物連鎖などを通してうまくいっているということは、一体どういうことなのか…。自然の中で、自然を見ながらその背後にあるものについて考えるのは、普段部屋の中で考えるのとはまた違った理解が出来るのではないのでしょうか。

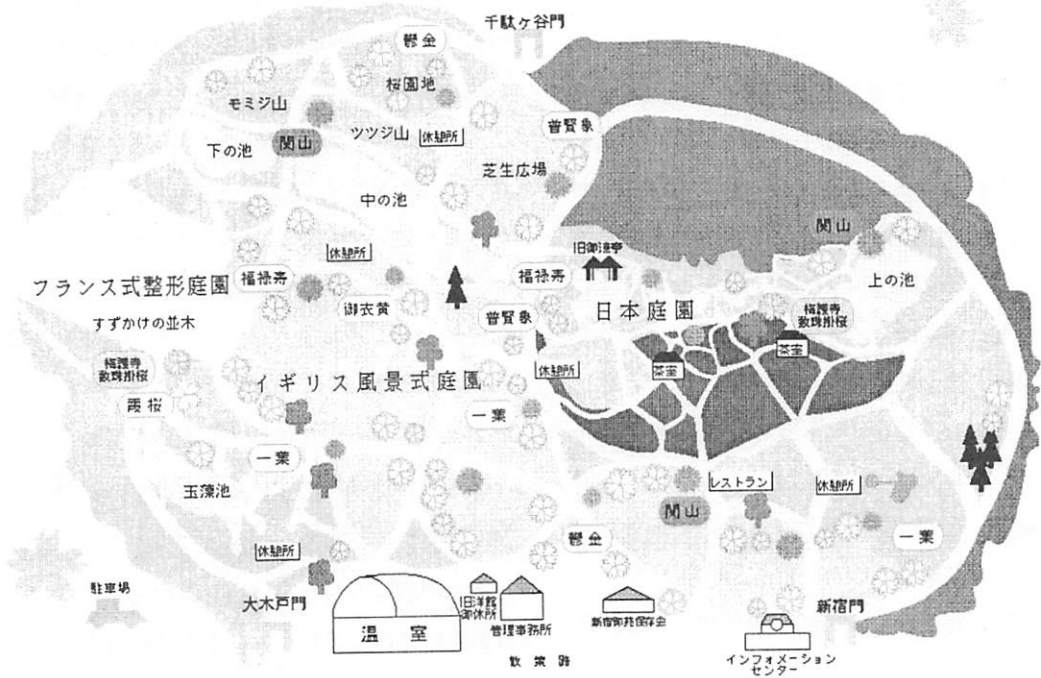
時間の感覚というのは不思議なもので、広大な自然の中でのんびりしていると時間はとてもゆっくりすぎるように思われますが、勉強などして集中するとあっという間に過ぎてしまいます。「まだこんな時間なんだ！」と驚きながらのんびりした前半に比べ、勉強を始めて少し (のように思われたのですが) たつと、御苑の開苑時間である 16 時 30 分でした。いつの間にかそんな時間になっていたのです。暖かかった日の光も、肌寒い風にとってかわろうとしていました。

広場へ来た道とは違う道を通ると、桜の木が密集して植えてあるところに出ました。夕日をうけて赤っぽく見える桜を見ながら、本日の勉強内容や久々の屋外での食事の楽しさなどを振り返り、「今日は本当にいい日だった」と感じました。住んでいる場所から近いところにこんな素敵な場所があり、安価にこられるのだからまた来て勉強やピクニックをしましょうね、と他の方々も満足の様子でした。

もう桜は散ってしまいましたが、今は新緑がすば

らしく、あたたかい季節になってきました。最近ではあたたかいというより暑くなってしまった感もありますが、皆さんも外出しやすいこの季節に、外に出て様々な恵みをじかに感じてみてはいかがでしょうか。

<http://www.shinjukugyoen.go.jp/> より、新宿御苑見取り図





2004.3.22 ZAMAN 新聞より

健康上の理由からアメリカに滞在するフェトウフラー・ギュレン氏が5年という長い沈黙の期間を経て、初めてヌリエ・アクマンに語った。このインタビューのいろいろな質問や答えをこれから何回かに分けて「やすらぎ」の中で紹介します。

ヌリエ・アクマン:「フェトウフラー・ギュレンと10年前、イズミルでサバー新聞の記者としてインタビューをしたことがある。それは彼にとってひとつの転機であった。というのも初めて自身の考えを「外部の」新聞記者と分かち合ったのである。一体どういった人物か、何をしようとしているのかといったような誰もが疑問に思っている事項に明解に回答したのだ。そして10年後、アメリカで今回はザマン新聞の名のもと、インタビューをするという機会を得た。ここで機会という言葉を使ったのは、私自身、1新聞記者としてこの5年間、その他大勢の同業者がそうであった様に、彼がアメリカでどういった生活を送り、そしてまたこれほど長い期間、母国から離れて暮らすことが彼にもたらす感情と、それが彼の思想にいかんにか反映されたか、いつトルコに帰国するのかといったような興味を持ち、そしてこれら疑問・興味に対する彼の説明を報道する初の新聞記者になりたいと思っていたからである。こうして流罪人の様な生活を送るその中で、彼とこうして向かい合う機会を与えられるとはなんて幸運なのだろうと感じている。」

質問:イスラーム社会はずっと長い間、「イスラームとテロは相容れないものだ」と言い、傍観してきました。しかし9.11が起きました。それに続いてトルコを含めて多くの国々で爆弾事件が発生しました。こういった活動を行う者たちは我々内部からでてきた者たちです。何よりも先に我々自身が抗議行動を起こすべきではなかったでしょうか?

ギュレン氏:おっしゃることは至極もつともです。今日、イスラーム教の本質は理解されていません。イスラーム教徒達は表に出て叫ぶべきです。「真のイスラーム教においてテロというものは存在しない。」と。なぜならイスラーム教においては人を殺める者は無神論者と同一視されるからです。人を殺すことは許されていないのです。戦争状態にあるときでも罪のない人々に軽く手を触れることすら許されていないのです。この点に関しては誰もイスラームに適っていると宣言すること(ファトワーを出すこと)は出来ません。誰も自爆テロリストになることを許されていません。誰も身体に爆弾を巻きつけ、無実の人々の中に飛び込むことを許されていません。その集団がどの宗教に属するものであったとしても、許されてはいないのです。戦争状態にあったとしても、そういった状態の中では均衡は破られがちですが、それでも人を殺すことは許されていないのです。預言者ムハンマドは、子供たちを傷つけるな、教会で祈りを捧げる者たちに触れるなど仰いました。その当時そう言われていたからといって、それが終わってしまったとはいえません。預言者ムハンマドが何と仰ったにしろ、それはアブー・バクル(第一のカリフ)によっても語られ、アブー・バクルが語ったことは、ウマル(第三のカリフ)によっても語られ、ウマルが語ったことはその後の時代においてサラフッディーン・アイユーブ(アイユーブ朝の創始者)によっても語られました。それはアルプ・アルスラン(セルチュク朝第二のスルタン)によっても、そしてクルチュ・アルスランによっても語られ、ファーティヒ(メフメット2世)も同じことを語ったはずで、そうして語り継が

れてきたのです。だからこそ混沌のコンスタンチノーブルはイスタンブールとなり得たのです。つまり、ローマ人もアルメニア人もお互いを干渉することはありませんでした。イスラーム教徒も彼らに何ら危害を加えることはありませんでした。イスタンブールが征服された後、ギリシャ聖堂にはファーティヒのそれは大きな肖像がありました。当時はこういった感じだったのです。ギリシャ聖堂の神父を呼び、聖堂の鍵を渡したそうです。ギリシャ正教の信者たちは当時を懐かしんでいます。当時はあらゆる思想が尊重されていました。しかしながら今日、何事にも欠陥があるように、イスラームを理解する上でも欠陥があります。

大変残念なことです。イスラーム世界ではごく一部の狂信的な導師たちや粗野なイスラーム教徒たちが利用できる他の武器はありません。イスラーム教は真実の宗教です。正しく生きる必要があります。その道程にあって、迷信的な手段をとることは決して正しくありません。目的が正しければ、その目的に到達する為に利用するあらゆる手段も正しくなければなりません。こうした観点から殺人を犯して天国に行くことは適いません。一イスラーム教徒が「さあ、これから自分は人を殺して天国に行こう」なんていうことは適いません。人を殺めることによってアッラーの承認を得ることは出来ません。一イスラーム教徒にとって最も重要なことはアッラーの承認を得ることです。アッラーの偉大なる御名を世界へ轟かせることなのです。

質問：昔は戦争というものは戦線においてのみ行われるものでした。しかし今日ではあらゆるところが戦地と化しています。結果として、テロも一つの戦争として、はたまたジハード（聖戦）としてみなしているのでしょうか？こうした行動から天国へのドアが開け放たれると思っているのでしょうか？テロリストたちはこうした考え方に基づいて行動しているのでしょうか？

ギュレン氏：イスラーム法は明確なものです。戦争は個人が宣言できるものではありません。戦争開始を一派閥や組織が宣言することは出来ません。戦争とは一政府が宣言するものであります。首相が、あるいは一軍隊が戦争開始を宣言もしないのに戦争へと突入できないのです。そうしなければいろんな人がそれぞれの理由で戦争を始めてしまいます。数人の略奪者を集めて、そうしてその略奪者たちと戦線を作り出してしまふ。また他の誰かも、また別の略奪者たちを集める。トルコについて考えてみてください。まともな考え方をもちた人々があります。でもこうした人たちにだってお互いに我慢ならないようなところがあるでしょうから、これまた戦線を作り出してしまふことだって出来る。そうしててんでばらばらに、自分はこれこれこういった人に対して戦争を宣言する、なんて始めてしまふ。キリスト教に対して寛容なある人に対して、また別の人が「奴はキリスト教に協力している。イスラーム教を軽視している。戦争を宣言すべきだ。奴は殺してしまわなきゃならない。」なんて言ってまた別の戦争を宣言する。政府が戦争を宣言しない限り戦争には向かうべきではないのです。戦争ってものはそれほど簡単なものではありません。もし誰か、そう、私が最も敬愛する学者が行ったとしても、それは正しくはありません。なぜならそれは、イスラームの理念に反するものだからです。イスラームには平和と戦争に関する法が明確に示されているからです。



皆は自分が管理すべき範囲を持っていて、その範囲内の人々に対する責任を持つ。子供の面倒を見てやって、見守ってあげる代わりに、子供の成功が親の成功でもあって、逆に子供が犯したことも親の責任とさせる。

これについてイブン・ウマルによると、預言者は言われた。「あなた方はみな保護者であり、自分の保護する者に対しては責任を負っています。統治者も保護者です。男は自分の家族の保護者です。女は夫の家と子供の保護者です。あなた方はみな保護者であり、自分の保護する者に関しては責任を負っているのです。」（アル＝ブハーリーとムスリムによる伝承）

※注一「保護者」とは「責任者」の意味で使われている。

子供たちは我々のものではなくて、アッラーからの預かりものである。次のハディースもこれについてである。「生まれてくる人は皆ムスリムとして生まれる。後から親によってキリスト教にされたり、ユダヤ教にされたりする。」（アル＝ブハーリーとムスリムによる伝承）

生まれてくる子供は、どんな人間にでもなり得る性格の持ち主として生まれてきて、我々にその中の可能性を開くために預けられる。その子供たちは親に従ってユダヤ教徒になったり、他の道を歩み始める。親や育った環境によって無宗教になったりもする。ここで言えることは、若い世代を育てるのに親世代がどれだけ熱心であるかが重要であり、家庭内教育も宗教や道徳を中心に行わなくてはならない。

どんな人間にでも育つ可能性を持つ子供達を、自分たちの理想の通りに育てる努力を示さないとあまり望ましくない人に育つことは十分に考えられる。ある日、自分が無宗教でアッラーの存在を否定する人間の親になってしまうかも知れない。それを防ぐためにその時期になったら子供に自分の考え方や価値観を教えるのは義務である。農業をやっている人は農作物や家畜の世話をきちんと必要な時期にやるのと同じで子供の世話や教育も欠かさずにやるべきである。今の世の中は共働き夫婦も多くて、親が忙しすぎるため子供がほったらかしにされている家庭も決して少なくない。人類の歴史上でこれほど子供が放任されている時代はなかっただろう。

イマーミエによって伝わったハディースによると、預言者は次のように言われた「時（終末の時）が近づいた時の父親のせいで子供達がなんと気の毒なことよ。」それを聞いて驚きを隠せないサハーバ（共に生きた仲間たち）が訪れた：「ムシュリク（アッラーが唯一であることを否定する者）の父親のせいで彼らは駄目になるのですか。」「いいえ。ムーミン（信仰を持つ者）の父親たちのせいで。」「どうしてですか。」「父親たちは彼らに宗教の基本を教えてやらないから。」

今の時代を参考にこのハディースを考えよう。このつかの間の世の中のせいで宗教の基本から放っておかれた。責任者たちは宗教を忘れて、この世のことしか考えず、自分をもつ全てのエネルギーをそれに使ってしまふ。この世の財産のためにあの世のことを無視する。

クルアーンを読ませて、それを教えて、宗教を実

行するのは時間かかるという理由で宗教的な知識を教えてやらない。

先ほどのハディースは次の節（アーヤ）と平行な意味を持つ。

「いや、あなたがたは（果ない）浮世を愛して、来世を等閑にする。」復活章（アル・キヤーマ）20-21節

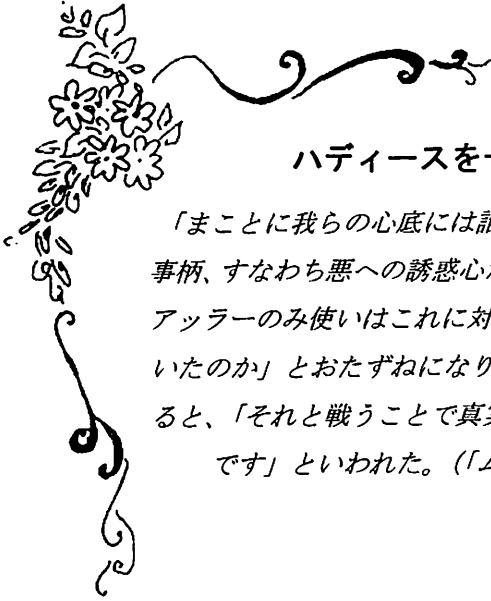
預言者は最後に次のように言われた。「我は彼らに近寄らない、彼らにも我に近寄らないでほしい。」

つまり、子供への責任を果たさずに目の前で一つの世代が溶けるのを見て何も感じない人は我々の

仲間ではないということである。心がまだ生きている親は預言者のこの警告を聞いて震えなくてはならない。親であることの責任を聞いたときに第2代カリフのウマルが責任の重さで意識を失い、24時間後にやっと起きることができたほどのショックを感じたくらいである。

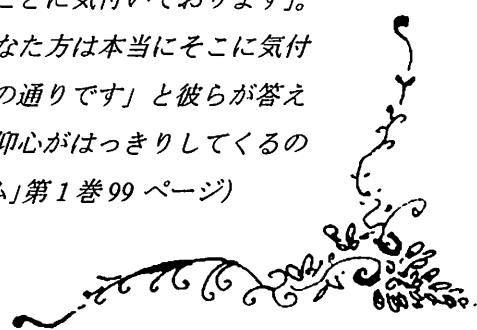
では、この時代を生きている我々はどれだけのショック受けるべきだろうか。

ショックを受けさせるようハディースがあることは、どれだけ重要な課題であるかを示すためである。子供たちが真面目で熱心なムスリムに育てば我々も将来その子供の家庭において尊敬されるような存在になる。



### ハディースを一つ学びましょう

「まことに我らの心底には誰も口にするのをはばかれる事柄、すなわち悪への誘惑心があることに気付いております。アッラーのみ使いはこれに対し「あなた方は本当にそこに気付いたのか」とおたずねになり、「その通りです」と彼らが答えると、「それと戦うことで真実の信仰心がはっきりしてくるのです」といわれた。（「ムスリム」第1巻99ページ）





慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

「これによってアッラーは、御心にかなう者を平安の道に導き、またその御許しによって、暗黒から光明に連れ出し、かれらを直き道に導きたもう。」(第5章16節)

さて今日は私(わたし)がはじめてイスラームを身近に感じたときのことをお話ししましょう。

このあいだ、私はがんという病気だと知らされ、おどろきました。その時から、実は、私の世界(せかい)は一変しました。次々といろいろなものが私の世界から消えていくのです。はじめ、色が消えました。音が消えました。それから光が消えました。私はまわりから強い人と思われていましたし、私自身そのように感じておりました。ところが、死の事実を目(ま)の当たりにした時、実は自分がたいへん弱い人間であると気づきました。そうです、強さも私からさえていきました。しいんとした真っ暗な世界をさまよいつづけながら、私は今まで自分が大切にしてきたことや、私が築(きず)き上げてきたもの、私の生き方そのものまでがくずれ去っていくのを感じました。死に対しては、名誉、地位、財産がなんの役にも立たないことも知りました。

ところで、みのまわりのせわをしてくださる人々の中に、どことなく、あかるいまなざしで私を見つめる方がおりました。私はその明るさにつられて、とまどいながらも、「今、すぐ死にたい」という私の心境を話しました。すると、その人は「わたしの信じる本に、『・・・それでもアッラーの慈悲に対して絶望してはならない。(39/53)・・・かれらは互いに競って善行に勤しみ、また希望と畏れをもって、われに祈っていた。われに対し(常に)謙虚であった。(21/90)』と記されています。ですから、私は120%希望を持ちつづけています。生きましょう。お医者様がおっしゃるのは予想であって決定ではないのですよ。決定できるのは、時と無縁の、時を超越(ちょうえつ)したお方だけです。人間は自分で自分の死をきめることはできませんし、またそうしてはいけません。それは則(のり)を越えることになり、人の力の及ばない領域(りょういき)にはいることなのです。そこに入りこみますと、どうにもならないむなしさ、死への恐怖(きょうふ)にとりつかれてしまうのです。生きましょう。生きるのですよ。生死

の決定は「時を越えるお方」におまかせしましょう。希望を持って死ぬまで生き抜くことが、人としてのつとめです。」とこたえ、ほほ笑みました。

すると、ふしぎにも私はおだやかなきもちなり、彼女にほほ笑い返したのです。なるほど、彼女は希望を確信していました。その確信の強さが、私をおちつかせたのでしょうか、その時です。ひかりがあたり一面をつつみはじめ、アッサーームというアッラーの美しい御名が頭(あはわ)れました。そうです、「平安の源(59/23)」を私は身近に感じたのでした。それからというもの、毎日彼女に会い、お互いにほほ笑むたびに、私はひかりを感じ、平安な気持ちになるのでした。

それからしばらくして、私はそれ(平安)がイスラームであると知りました。

「あなたがた信仰する者よ、心を込めてイスラーム(平安の境)に入れ。(2/208)」

そうです、イスラームとは「平安の境」なのですね。イスラームは本当にすばらしいです。さらに、「・・・お導きに従う者は、平安である。(20/47)」という御言葉から、真の平安とは、実は死の恐怖から解かれることのみではなく、もっともっと大きく広いものだと言うことも知りました。そう、永久(とわ)のやすらぎです。

こどもたちよ、もうおわかりですね。私のはじめて身近に感じたイスラームとは平安(やすらぎ)です。あなたたちの命はけっして傷つけられてはならない神聖なものです。でも、もし長い人生の中で、「死にたい。」と思うようなつらいことがおこったなら、どうかアッサーームというアッラーの美しい御名を思い起こしてください。そして、生きぬいてください、決められたその日まで・・・希望をもって、私も生きぬきます。

私を死なせ生かせるお方よ、あなたの栄光にたえあれ、私達を火獄からお守り下さい。

皆の者よ、おまえたちの生命、財産、名誉は、主の御前(おんまえ)に姿を現わすまで神聖にして侵すべからざるものである。それらは(巡礼の)この日、この月、この土地と同様神聖である。(ハジヤトゥル ワダーでの「訣れの説教」より)」

注：数字の読み方；(39/53)はクルアーンの第39章53節といういみです。



「人が死んだ時、彼の行為は三つの事柄を除いてそこで中断される。それらは、繰り返し行われるサダカと、役に立つ知識と、彼のために祈る敬虔な子供である。」(ムスリムの伝えるハディース)

子供の教育は親の義務である。このハディースが伝えているように、人が死んだ時、その子供が引き続き親のためにドゥアをし続ければその報酬が得られるのである。結婚を決めるにあたって一番私がかけたことは子供の教育である。ムスリムになってまだ二年目という気持ちから、まだ自分が勉強不足のような気がしてとても結婚という人生の一大決心に足を踏み入れることがなかなか出来なかった。子供ができるということを考えれば、その考えはなおさら結婚を遠ざけていった。しかし、人は毎日毎日学習の日々であることに気付いたとき、すんなり結婚への一歩が踏み出せた。今考えれば、人は決して満足することなく、自分がまだ持ちあわせていない新たな知識を求め続けるのである。すなわち自分が信仰的に満足する日は決して近くはないのではないかと考えた。夫から学ぶことはたくさんある。例えば家族内の問題において信頼のある夫に相談を持ちかけることも出来るし、近い距離から違った見方でアドバイスを受けることができる。また子供から学ぶこともたくさんあるだろう。子供から投げかけられる質問に対する答えを見つける課程で自分が学んでいくことも多々あるだろう。先日、クラスの中でイスラームもしくはムスリムについて質問を受ける機会があった。彼らはまだ二十歳前後ではあるが、はっきりとした問題意識をもって私に質問をした。彼らの大半はイスラームに対してそんなによいイメージを持っていないことが分かった。しかしそれはメディアの影響や、今実際に世界で起こっているムスリムに関わる諸問題を見れば当然抱いてしまう印象だと思う。様々な形で学習していく中で、彼らが正しい判断の中でイスラーム、或いはムスリムを見ることが出来ることを望みたい。(アーミン)私がここでむしろ言いたいことは、こういう立場に恵まれたとき、少なくともある程度の質問に答えられるような状況を自分につくっておかなければいけないということである。特に日本ではまだイスラーム、ムスリムに対する知識が薄く、また誤解もある、その時に正しい答えとともに正しい理解を与えることはとても重要なことではないかと考える。イスラームの特徴として、キリスト教の人々のように個別に家をまわり改宗を促したりはしない。しかしイスラームは人と人との自然なつきあいの中でその真実を見せることがある。そこから改宗に至る人々も多くいる。まだまだ日本でマイノリティーであるムスリムのたった一人の存在がイスラームの理解に誤解を与える様子を何度か見たことがある。実際に誤解を抱いた彼らに正しいことを理解させるにはとても時間がかかったこともある。イスラームの生活に囲まれていない私たちが一番奮闘する毎日のジハードとは信仰を守ること、そして夫の為や、子供、家族のために環境を整えることではないかと思う。自分の子供がいとしいがゆえに甘いものを惜しみなく与え、大人になって虫歯だらけになった後、子供に恨まれるといったことにならないよう、信仰においても子供が立派に成長したとき、正しい知識と行動とともに満足がいくように環境を整えるのが親の責任、特に母親の責任ではないかと思う。





## あなたの御跡をさがし、求めて見出せるのならば

あなたの御跡をさがし、求めて見出せるのならば、

あなたの御跡に頬をすりつけられるならば

主が機会をお与えになり、あなたの御顔を見出す事ができるのならば

いとしいムハンマド（彼の上に平安あれ）よ、私の魂は、あなたを求めて続けております。

ユーススは絶え間なく言の葉（ことのは）であなただを讃えつづけます。

言の葉でも、そして心でも、

頬をぬらし、涙しながら、異郷の地で、

光り輝くムハンマドよ（彼の上に平安あれ）、私の魂は、あなたを求めて続けております。

（ユースス エムレ）



礼拝（サラート）第4回

5) 礼拝の仕方（先月号からの続き）

5 : イスティアーザ

「アウーズ ビッラーヒ ミナッシャイターニッ  
ラジーム」（私は呪われたシャイターンからアッ  
ラーに助けを求めます）と唱える。

أَعُوذُ بِاللَّهِ مِنَ الشَّيْطَانِ الرَّجِيمِ

6 : キラーアトウルファーティハ

ファーティハ章を自分自身に聞こえる声で読む。

7 : タアミーン（アーミーンと言うこと）

ファーティハ章を読み終えた後に「アーミーン」

と言う。 آمين

8 : クルアーンの章またはアーヤを読む

それぞれの礼拝の最初の2ラカートで短いクルア  
ーンの章、またはつづいている3節（アーヤ）を  
読む。

9 : ルクーウ（立礼）の姿勢へ移る

両手を上げ「アッラーフアクバル」と言い、ルク  
ーウの姿勢へ移る。この時ルクーウ以外のことを

意図しないこと。 اللهُ أَكْبَرُ

10 : ルクーウ（お辞儀の姿勢）

両手は指をひろげ両膝を掴むようにし、背、膝は  
曲げないようにする。腰を直角に曲げた姿勢で「ス  
ブハーナ ラッビヤルアズィーム」と3回言う。

سُبْحَانَ رَبِّيَ الْعَظِيمِ

11 : アルイウティダール（ルクーウから戻ること）

「サミアッラーフ リマン ハミダ」と言い両手  
を上げながらルクーウの前の姿勢に戻る。この時  
イウティダール以外のことを意図しない。手を下  
ろしながら「ラッバナー ワラカルハムド ワッ  
シュクル」と言う。一呼吸置く。

سَمِعَ اللهُ لِمَنْ حَمِدَهُ

رَبَّنَا وَ لَكَ الْحَمْدُ وَ الشُّكْرُ

12 : アッラーフアクバルと言い、サジダ（平伏）  
を行う

この時サジダ以外を意図しない。額、鼻、両手、  
両膝、両足をきちんと床につける。両肘は床に着  
かないようにする。女性はサジダの時に両脇をあ  
まり開けないようにする。「スブハーナ ラッビ  
ヤルアアラー」と3回言う。

سُبْحَانَ رَبِّيَ الْأَعْلَى

13 : アルジュルース（座ること）

「アッラーフアクバル」と言いながらジュルース  
の姿勢をとる。この時ジュルース以外を意図しな

い。一呼吸置く。 اللهُ أَكْبَرُ

14 : 2回目のサジダ

「アッラーフアクバル」と言い2回目のサジダを  
する。



## 子供らのイスラーム精神

イスラーム精神の高揚は、サハーバ時代の青少年の場合においてとくに際立って見受けられた。これは彼らの両親の手にある間に受けた感化の賜物である。

しかし、近代の両親は不注意と溺愛で子どもを台無しにしてしまっている。もしも彼らが、これに反しイスラーム的実行の重要性を彼らの心の中に教え込むならば、彼らが成長するにつれて、それは容易に日常生活のなかに溶け込んで、見違えるほどの人物になることは間違いない。われわれの子供が何か好ましくないことをするのを見ても、「彼はまだ子供だから。」と見て看過するのが一般である。こんな状態で完全に成長してしまった愛児の上に幸福を感じずる両親もある。われわれは子供がなにか非イスラーム的な言行をしたとき「おお、かれはあれでよいのだ、大きくなれば…」と言ってわれわれ自身を欺いている。無思慮な計画の下に、いかに悪い種が成長することであろうか、もしも子供らがいよいよムスリムになることをのぞむならば、その幼少の時から、心の中に正しい信仰とイスラームの種を播かなければならない。サハーバは、彼らの子供らに対し、イスラーム的実行の訓練に熱心であった。そして子供らの行為に対しては注意深く目を注いでいた。

ウマルの時代、一人の男が斎戒月に飲酒のかどで警察にひっぱられていた。ウマルの前に彼が引き出されたとき、彼に対して注意して言った。お前は困ったやつだ！われわれの子供でさえ、この月は斎戒しているのに…

それを聞くや否や彼は、雲を霞と逃げて、永久にメディナから消えてしまった。



## レシピコーナー

### 材料

ポロねぎ (太い長ねぎでも OK) 500g (太いの2~3本)

牛挽肉 300g 玉ねぎ 1個

トマトペースト 100g バター 40g

水 3.5カップ 塩 少々 胡椒 少々

### 作り方

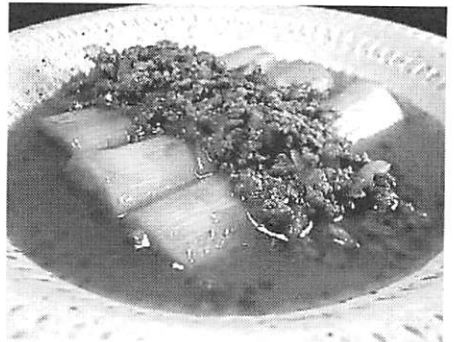
玉ねぎをみじん切りにし、ポロねぎの外皮を一枚むいてから4cmの長さに切ります。

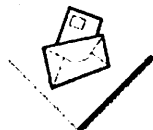
鍋にバターと玉ねぎを入れて炒めます。透き通ったところで挽肉を入れてぼろぼろなるまで良く炒めます。

トマトペーストを入れてを香りが出るまで炒めます。

ポロねぎを入れて混ぜます。水、塩、胡椒を入れて中火でねぎが柔らかくなるまで煮こみます。

今回の料理はねぎがにくずれやすいので煮こんでる間かき混ぜないのが形崩れしないポイントです。





## 「イスラームとは何か」を読んで

ハワーリジュ派とシーア派とスンナ派

イラク情勢が混沌とするなか、よくテレビなどでスンナ派とシーア派という言葉を目にしますが、お恥ずかしながら詳しくわからなかったので調べてみることにしました。分派の発端は、預言者ムハンマドの死後誰が後継者になるかという問題だったそうです。当時人気のあったアリー支持者達はアリーが後継者とするもアブバクルが選ばれ、結局アリーは四代目のカリフとなりました。ところがもうその頃にはイスラーム国家はかなりの範囲に広がっており、首都マディーナからすべてはコントロールできなくなっていました。三代目カリフに任命されシリアの総督だったムアーウィヤはアリーをカリフと認めれば自分が罷免されてしまうため、アリーに反対し戦いになります。しかし勝敗はつかず調停を行うことになると、アリーの支持者の一部が怒って立ち去り（ハラジャ）、ハワーリジュ派となってアリーとムアーウィヤを暗殺しようと企てます。結果、アリーは暗殺されムアーウィヤは生き延びてウマイヤ朝を開きます。シーアというのは「党派」という意味で、もとは「アリーの党派」「ムアーウィヤの党派」だったのが、ムアーウィヤが王朝の主となってからは、党派（シーア）という「アリーの党派」を指したのだそうです。アリーの死後、彼の信奉者達は長男のハサンに従い、ハサンの死後は弟のフサインが彼らを率いることになります。その頃、ウマイヤ朝では晩年のムアーウィヤが一族支配を続けるため息子のヤジードをカリフ位に就けました。ヤジードは悪徳で国家の長になるような人物ではなかったため、フサインは彼と戦うため小人数で支持者の待つクーファへと向かったのですが、その途中、カルバラの土地で殺されてしまいます。この悲劇によって、フサインの死を防げなかったクーファの支持者達が、「懺悔する者達」と名乗ってシーア派の教宣を展開し始めました。

つづく。。

国内： 1ヶ月 250円、 6ヶ月 1300円、 1年 2500円

国外： 1ヶ月 300円、 6ヶ月 1600円、 1年 3000円

郵便振替口座番号： 00140-4-574489 口座名義： Yasuragi

皆様のご意見、ご感想、ご質問をこちらのコーナーまで心よりお待ちしております

<http://www.yasuragiweb.com>

[yasuragi\\_nihon@hotmail.com](mailto:yasuragi_nihon@hotmail.com)

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 3-10-6, 404